|  |
| --- |
| **平成27年人口動態統計調査結果の概要**－　厚生労働省公表資料より　－大阪府総務部統計課 情報分析グループ《 詳細は厚生労働省ホームページに掲載しています。　<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei15/index.html> 》 |

平成28年９月８日に、平成27年人口動態統計（確定数）の結果が、厚生労働省から公表されました。その中から、全国分、大阪府分の概要を紹介します。

統計トピックス

**１　人口動態統計調査について**

我が国の人口動態事象を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的として実施されている「人口動態統計調査」は、「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により市区町村に届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を調査対象としています。市区町村から保健所、都道府県を経由して、厚生労働省でデータをとりまとめています。

**２　結果の概要（平成27年１月～12月）**

**（１）出生数**

全国の出生数（総数）は（※）100万5,677人で、前年の100万3,539人より2,138人増加しました。

出生数（総数）のうち、男は51万5,533人で、前年より19人減少、女は49万225人で、前年より2,219人増加しました。

大阪府の出生数（総数）は７万596人で、前年の６万9,968人より628人増加しました。

出生数（総数）のうち、男は３万5,936人で、前年より149人増加、女は３万4,660人で、前年より479人増加しました。

また、都道府県別にみると、東京都の11万3,194人が最も多く、次いで神奈川県が７万3,475人、大阪府の順となっており、鳥取県の4,624人が最も少なくなっています。

（※）掲載の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が「総数」に合わない場合があります。

**（２）死亡数**

全国の死亡数（総数）は、129万444人で、前年の127万3,004人より１万7,440人増加しました。

死亡数（総数）のうち、男は66万6,707人で、前年より6,373人増加、女は62万3,737人で、前年より１万1,067人増加しました。

大阪府の死亡数（総数）は、８万3,577人で、前年の８万1,653人より1,924人増加しました。

死亡数（総数）のうち、男は４万4,779人で、前年より996人増加、女は３万8,798人で、928人増加しました。

また都道府県別順位にみると、東京都の11万1,673人が最も多く、次いで大阪府、神奈川県が７万5,762人の順となっており、鳥取県の7,271人が最も少なくなっています。

****

注：昭和47年以前は沖縄県を含まない。

**（３）婚姻件数**

全国の婚姻件数は63万5,156組で、前年の64万3,749組より8,593組減少しました。

大阪府の婚姻件数は４万6,689組で、前年の４万6,934組より245組減少しました。

また、都道府県別にみると、東京都が８万7,167組と最も多く、次いで神奈川県が４万8,263組、大阪府の順となっており、鳥取県の2,681組が最も少なくなっています。

**（４）離婚件数**

全国の離婚件数は22万6,215組で、前年の22万2,107組より4,108組増加しました。

大阪府の離婚件数は１万8,101組で、前年の１万7,834組より267組増加しました。

また、都道府県別にみると、東京都が２万4,135組と最も多く、次いで大阪府、神奈川県が１万6,234組の順となっており、鳥取県の993組が最も少なくなっています。



注：昭和47年以前は沖縄県を含まない。

****

**（５）死因**

　　全国の死亡数を死因順位別にみると、「悪性新生物（※）」が最も多く、死亡総数の28.7％を占めています。次いで、「心疾患（高血圧を除く）」が15.2％、「肺炎」が9.4％となっています。

　　大阪府の死亡数を死因順位別にみると、「悪性新生物」が31.2％と最も多く、次いで、「心疾患（高血圧を除く）」が15.4％、「肺炎」が10.4％となっています。

（※）悪性腫瘍のこと。細胞が何らかの原因で変異して増殖を続け、周囲の正常な組織を破壊する腫瘍。

がんや肉腫など。



**全国及び大阪府の主な死因別死亡数の割合（平成27年）**

**（６）各統計表の都道府県別順位**

人口動態総覧，都道府県（21大都市再掲）別より、主な項目から順位別（上位５位、下位５位）に表しました。



注：都道府県別の表章は、出生は子の住所、死亡は死亡者の住所、婚姻は夫の住所、離婚は別居する前の住所によります。